

## 令和2年9月定例教育委員会会議

- 開催日時 令和2年9月23日(水)  
午後1時30分～午後2時30分
- 開催場所 鹿嶋市役所 3階 会議室304
- 出席委員 教育長 川村 等  
教育長職務代理者 岡見 文彦  
委員 信樂 哲  
委員 原 キミ  
委員 大槻 啓子  
委員 大崎 千帆
- 事務局出席者 教育委員会事務局部長 佐藤由起子  
教育委員会事務局次長 大須賀規幸  
教育委員会事務局次長 宮崎 正明  
教育指導担当参事兼課長 石津 光彦  
総務就学課長 君和田浩幸  
幼児教育課長 堤 芳隆  
総務就学課長補佐 平山麻由美  
総務就学課主事 横田 友人

### ○ 議 事

#### 1 議 案

- 公 開 議案第47号 令和3年度鹿嶋市奨学生募集要項及び鹿嶋市奨学生推薦基準の制定について (総務就学課)
- 非公開 報告第16号 職員の人事について (総務就学課)
- 公 開 報告第17号 叙位・叙勲の内申の専決について (総務就学課)
- 公 開 報告第18号 議案に対する同意の専決について (総務就学課)

#### 2 協議・報告事項

- ・令和2年第3回鹿嶋市議会定例会 一般質問答弁について
- ・令和3年度鹿嶋市立幼稚園・認定こども園(1号認定)園児募集要項について
- ・令和3年度鹿嶋市保育施設等園児募集概要について

#### 3 その他

- ・教育委員会関係日程
- ・新型コロナウイルス感染症に係る学校の取組み

○ 会議録

1 開 会

教育長から開会が宣言された。

2 議事録署名人の氏名

信楽委員が指名された。

3 議 案

議案第47号  
(総務就学課)

令和3年度鹿嶋市奨学生募集要項及び鹿嶋市奨学生推薦  
基準の制定について  
令和3年度の奨学生を募集するにあたり、要項及び推薦  
基準を制定するもの。

【主な質疑・意見等】

特になし

※議案第47号については、原案どおり可決された。

報告第16号  
(総務就学課)

職員の人事について

【主な質疑・意見等】 ※非公開案件であるため、公開しない。

※報告第16号については、原案どおり承認された。

報告第17号  
(総務就学課)

叙位・叙勲の内申の専決について  
公立学校長として退職した者が死亡した場合、叙位・叙  
勲が受けられるもの。

【主な質疑・意見等】

特になし

※報告第17号については、原案どおり承認された。

報告第18号  
(総務就学課)

議案に対する同意の専決について  
令和2年第3回鹿嶋市議会定例会議案の中で、教育委員  
会に関する部分について同意をするもの。

【主な質疑・意見等】

特になし

※報告第18号については、原案どおり承認された。

4 協議・報告

・令和2年度第3回鹿嶋市議会定例会 一般質問答弁について

【主な質疑・意見等】

- 委員 答弁書内のICT関係で、Society（ソサエティ）5.0 という言葉が何度も出てきている。これは未来社会のコンセプトを表すキャッチフレーズなのは分かっているが、5.0 は具体的に何を表すのか。
- 次長 Society1.0の狩猟、2.0の農耕社会から3.0の工業社会、4.0の情報化社会となり、5.0はコンピューターが生活の一部を判断する社会であるということを示している。情報化社会の先の社会ということである。
- 委員 樋口議員の質問で、3月に「MONET Technologies（モネテクノロジーズ）株式会社」と覚書の提携とあり、説明を読むと、主に自動運転に関する交通関係の計画のようなものであるが、将来的にはもっと拡大して、スマート&コンパクトにデジタル技術を拡大して、さらに締結していくということか。運転だけでなく、様々なことで、鹿嶋市の未来のために、様々な試みを行う上で、この会社と締結をしたのか。
- 次長 会社と契約していくのはそうした社会の中での方法の1つで、私たちはSociety5.0の時代で、コンピューターに判断を委ねる社会が来るだろう。モノがコンピューターとなり、判断をする時代がくるであろう。それが「IoT」と言われている。それがスマート社会の構築の一つである。
- 委員 将来的には、この会社に限らず、他の会社とも契約が行われるということか。
- 次長 モネテクノロジーズとの締結は、自動運転などの分野での締結である。
- 委員 GIGAスクールのことで、鹿嶋市は年度内に1人1台のタブレット端末の整備ができるという話であるが、果たして間に合うのか。新聞記事を見ていると、タブレット端末の配置が予想より遅れているとなっていたため、不安になってくる。
- 総務就学課 年度内を目安に整備できるよう準備を進めている。ただ、そのような情報が流れているため、納品については業者としっかり調整をして、年度内に整備できるようにしたい。

令和3年度鹿嶋市立幼稚園・認定こども園（1号認定）園児募集要項について  
令和3年度鹿嶋市保育施設等園児募集概要について

【主な質疑・意見等】

- 委員 鹿嶋の待機児童はほぼ解消されていると思うが、来年度の見通しとしては、待機児童の心配はないか。  
実りの木保育園が新しく開園予定のようだが、この保育園の運営方針や運営母体はどこか。  
鹿嶋市の公立認定こども園は現在、平井認定こども園だけであるが、鹿嶋市の幼稚園が老朽化しているということで建て替えなどの話も聞いているが、将来的に、認定こども園が増えていくと漠然と理解していたが、鹿嶋市の将来の計画はどうなっているのか伺いたい。
- 幼児教育課 待機児童については、今年度4月で0人を達成している。4月時点では、施設的に収容できる人数がぎりぎりであり、年度途中の受入れには不安があるので、今年度の9月に小規模保育園を設置している。  
子どもの数というのは基本的に横ばいであり、この体制を維持すれば待機児童を解消できると考えている。
- 次長 実りの木保育園は、運営はノーリツ学園が社会福祉法人を設立し、開園する予定である。場所は給食センターの近くにある。
- 委員 開設の準備はまだしていないように見えるがどうなのか。
- 次長 まだ、ボーリングの段階で、これから進めていく予定である。
- 委員 今回初めて幼児教育保育事業に参入したということか。
- 次長 その通り。  
名前が似ていて分かりづらいが、実りの木保育園が来年度新しく開園する保育園であり、みどりの森保育園は、緑ヶ丘で今年4月から開園している。
- 幼児教育課 認定こども園については、再配置計画を去年作成した。老朽化が進んでいる三笠幼稚園、波野幼稚園を一つにして認定こども園化を考えている。幼稚園、保育園を順次統合化していき認定こども園化を図っていく予定である。現在の幼稚園、保育園、認定こども園は合わせて8

施設あるが、統合や閉鎖などで半分の4施設にするような考え方でいる。そのうちの3つが認定こども園で、残りのはまなす幼稚園については10年経過のなかで認定こども園にするかどうか考えていく。

委員 三笠幼稚園と波野幼稚園が一緒になって、高松幼稚園はどこの施設と統合するのか。

幼児教育課 高松幼稚園は、佐田保育園と統合し、認定こども園にする予定である。  
平井認定こども園がそのまま維持となる。

委員 宮下保育園、大船津保育園は、閉鎖か。

幼児教育課 その通り。

委員 鹿嶋市の子宝手当が支給されるようになってからの出生率の推移を伺いたい。子どもが多く産まれるようになったのか、現状維持なのか、反対に出生率が下がっているのか。

来年の3歳児はこの募集に対して、現状で考えられる、志願者の状況はどうなのか。把握しているだけで結構なので、人数だけでも教えてもらうことはできるか。

次長 1点目の子宝手当支給後の、推移については、平成27年から平成30年までの子どもの出生数を見ると第1子、第2子、第3子は減少している。健康福祉部の評価としては、大きな減少を止めたと受けとめている。第4子以降を見ると、増えている部分はある。第3子以降の出生率は、平成27年と平成30年の数を比較すると0.06%の増加をしている。第3子以降の出生数は近隣市で比較しても増なので、成果は出ていると評価している。

委員 幼稚園の募集に関連して、3歳児や4歳児、5歳児の子どもの数は把握しているか。

次長 出生数から見ると、平成30年に生まれた子どもは478人、平成27年に生まれた子どもは582名である。

委員 数日前のニュースで、市町村にもよるが、新婚に60万円を送り、少しでも出生率を上げる試みを政府が行うみたいだが、鹿嶋市はこれを実施するのか。

委員 現在、結婚した夫婦に30万円の支給をしている市町村が60万円に増額になるということだが、鹿嶋市は現

在，30万円の支給を実施しているのか。

次長 実施していない。

委員 この事業は半分が自治体で出しており、もう半分は国が出している。ただ、どの自治体もあまり取り組まれてはいないようである。そのため少子化対策について何か取り組まないといけない。

教育長 教育委員会に関係ない訳でないが、所管が異なるので、主体的に話がしづらい。

人口を増やすのに、第2子まででは減っていくというのは見えているので、第3子が増えているというのは歯止めになっているということである。数値的には少ないかもしれないが、第3子が増に向かっているのは、全体的に減っている中での増なので、かなりの歯止めになっているのではないか。その評価については人によってさまざまだが、一定の効果は出ていると言える。

## 5 その他

- ・ 日程について
- ・ 新型コロナウイルス感染症に係る学校の取組み

委員 新型コロナウイルス感染症で、今まで経験したことのない事態になり、子ども達も臨時休校で学校に行けない日が続き、夏休みも日数が短縮され、そして学校が開始され、子ども達も戸惑ったと思う。学校が開始されて約2か月経つが、学校がスタートしてから学校現場の方で子ども達の体のリズムが狂っていたり、学業に関しては適応するのに時間がかかったりしてはいないかと心配が想像されるが、その点に関して、教育委員会が現場で子ども達の変化をリサーチはしたか。

学校現場の方から子ども達がこういうことで問題が起きているということで学校から上がっているのか。今まで経験したことのないことだったので、大人である我々でさえ、戸惑っている、ストレスがたくさん溜まっているわけで、子ども達はもっとストレスや我慢を強いられることが多くあったと思うし、学校に戻ってきて友達関係とか勉強の関係とかいろいろな悩みがあるのではないかと、教育委員会として把握しているものはあるか。

教育長 教育指導課の報告によると、学校が再開されてからの

状況は、学校そのものが落ち着いた雰囲気の中で、授業が行われている。

直接、教育指導課が計画訪問などで学校を訪問しているので、その際に子ども達の様子を見ていたり、先生方の話を伺っていたりしているが、学校の現場の方からこうして欲しい、このような状況で困っているなど、特にそのような話は聞いていない。

委員

いじめの件数とか不登校の数とかそういう部分に関しては昨年度の違いは出ていないのか。

教育長

大きく数字に出ているかは聞いていないが、ほとんど変わらない。

子ども達も学校の再開を待ちわびていたと思うし、学校が始まって嬉しいという気持ちの方が強いと思う。

修学旅行は中止になったが、行事の中で運動会・体育祭はできているし、中学生は、中止となった総体の代替えとしてスポーツ大会を実施することができたため、ある程度の満足感は得られていると思う。

委員

給食の時間、友達とお話をして楽しかったのに、今はそのお話ができなかったり、休み時間などに友達との関わりができなかったりで、なかなか馴染めない子もいると、一般的な話題として出ている。しかし、鹿嶋市はそのような話が出ていないということはありがたいと思う。

委員

新聞や報道なんかを見ると、教育の部分で専門家がコロナ禍で、そういう見方を記事にすることもある。実際には、給食も一点の方向を向いて飲食はしているが、相対的にみると、家庭内で親も子供もずっと長くいることがストレスをため込んでいたのではないかと思える。学校としていろいろな制約があったとしても、24時間、ずっと顔を合わせているよりも良かったのではないかと思える。

委員

アクティブラーニングについても、ソーシャルディスタンスに気を付けなければいけないが、コロナ禍以前のように、アクティブラーニングとか積極的にはできないのか。

教育長

アクティブラーニングは、課題解決学習なので、課題をとらえて課題を解決できる力をつけることが目的である。パーソナルワーク、グループワーク、クラスワークを手法としてやっていたが、それに限らなくても同じ成

果を出せるということと、注意をすればグループワークができるので、そういう意味では、アクティブラーニングは今も続けてやっている。

今後、1人1台のタブレットになるので、端末をどんどん役立てることで授業の進化が期待できるのではないか。

委員

新聞である学校がパーテーションをPTAに相談して購入し、子どもたちが向かい合っただのグループワークを行ったと見た。鹿嶋市でもパーテーションを購入しているか。

総務就学課

パーテーションについては、学校単位で購入しているところもあるが、教育委員会として一律に購入はしていない。教育委員会としては、学校と相談しながら購入をしていきたい。

## 6 閉 会

教育長から閉会が宣言された。